



「^{いざな}知の宝庫」への誘い

鶴 衛 学長

大学図書館とは本来、その大学の学生や教職員のために本や資料などを保存して提供するのが役割である。しかし、最近は電子情報の収集や検索サービス、さらには他の公共図書館との連携や地域住民への開放など、活動の幅が広がっている。詳しくは本号の特集をご覧ください。私がここで強調したいのは、本学附属図書館の情報発信力の高さだ。つまり図書館職員の対応力、発想力の素晴らしさについてである。

例えば、プロ野球の広島東洋カープが25年ぶりのリーグ優勝を達成した昨年秋、図書館で早速カープ特集が展開された。1階の自習室前の掲示板には、カープを取り上げたスポーツ新聞の1面がずらり。2階の第一閲覧室ではカープ関連本のミニコーナー、3階メディアの森にはカープ関連DVDと雑誌の特集コーナーがお目見えした。

張り紙のコピーはこんな具合。「図書館にもカープ関連の資料がたくさん! この機会にぜひ利用してはいかがですか!?!」。カープファンにはたまらないサービスである。恐らく「カープが優勝したらこんな企画をやろう」「ではどんな本や資料があるか調べよう」。職員たちが

議論を重ねて準備をしたことだろう。図書館を訪れていつも感心させられるのは、常に何かしらのイベントや特集が組まれていることだ。「この本はお薦めですよ」といった、ちょっとした手書きのコメントもここかしこにある。こうした職員の努力の根底にあるのは「図書館に親しみを持ってほしい」「もっと利用してほしい」と願うプロ魂だと思う。

いくら蔵書や資料がたくさんあっても、最新の検索システムを備えていても、利用されなければ宝の持ち腐れ。図書館は「知の宝庫」である。その案内人の図書館職員に気軽に声を掛けてみよう。近道を教えてくれること間違いなし。さあ、自分の宝を求めて、図書館へ行こう。



工学部
宋 相載 先生

大学生活の中で、本学の図書館の魅力や恩恵を感じていますか? これまで色々なことに悩み、困っているとき、図書館は何度も私を助けてくれました。教育、研究はもちろん、進路に悩む学生の指導、文化・芸術・歴史など、大きくくばれば大きく響いてくれる、太鼓のような存在でした。

皆さんにとっても、図書館はそういう存在です。分野や媒体、種目を問わず細かな学生ニーズに即応してくれる、ありがたい存在です。図書館は情報収集と保管機能とあわせて、自学自習して自分を高める学修の場でもあります。将来の進路や就活にも役立つ情報が宝の山です。

私は学生諸君に、一週間に一度は図書館にいき、書架の迷路を歩きながら、思わぬ素敵な本や本物との“間接的”な出会いを大切にしてほしいと言っています。自分から変わらなければ何も変わりません。本物との出会いは自分を変えるターニングポイントにもなります。ぜひ、図書館の魅力を感じてみてください。



情報学部
長坂 康史 先生

大学での学びの面白さは、自分の目指す分野を深く掘り下げ、専門分野の知識を修得するところにあります。さらに、これまで触れたことのない分野への興味を広げ、幅広い知識を修得するところにあります。しかし、これらの面白さは待っていても得られません。そこで活用したいのが図書館です。幅広い知識に触れるため、いつもは訪れることのない書棚の前に行き、自分の専門とは全く違う分野の図書を手にとってほしいです。きっと新しい出会いがあるはずですよ。

また、大学での学びは個人での学びから、共に学ぶグループでの学びへと変化してきています。図書館は学びのために集う場所としても利用できます。ぜひ、グループワークやディスカッションで活用してみましょう。

このように私たちの学びをさまざまな形で支えている図書館を十分活用して、充実した大学生活を送ることを期待します。

大学での学修と 図書館活用法



図書館の利用に関する一考察

三熊 祥文 館長

白状すると、私は大学に入学するまで図書館をほとんど利用したことがありませんでした。そんな私が曲がりなりにも図書館を利用するようになったのは、大学時代に所属していた英語サークルでスピーチやディベートを行うために資料集めをする必要に駆られたからです。そういった場で人を説得するための話を構築するためには、私の頭の中にある限られた知見だけ

では全く不足だったのです。このような図書館との関わり方は、スピーチコンテストのような「祭り」の存在が利用を後押ししてくれていたという意味で、昨年ここでも触れたビブリオバトルを思い起こさせてくれます。

一方、このような私の図書館との関わり方と対照的なのが、私の娘たちです。彼女らは読書の好きな母親の影響で、地域の図書館で毎週貸出冊数一杯の本を借りてきていろいろなジャンルの本に親しみ、また翌週新たな本を借りに行くということが小さい頃からの習慣になっています。また、集中し

てレポートを書いたり、友だちと出会う場としても活用しており、図書館が生活に溶け込んでいるようです。

さて、学生の皆さんはどんな図書館の利用の仕方をしてますか? 上記のどちらかに似ていましたか? それとも全く異なる関わり方でしょうか? 図書館は、書物という対象物への関わり方を問いません。私たちは、あらゆるタイプの読者を大歓迎します。本好きであろうがなかろうが、とにかく足を運んでください。その賑わいを私たちは熟成していきたいのです。



環境学部
小黒 剛成 先生

本学では、2016年度から新たな教育プログラム「HIT教育2016」を掲げ、建学の精神

「教育は愛なり」と教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」のもとに、堅実な学力と豊かな人間性に満ちた「学士力」を有する技術者の養成を目指しています。この「HIT教育2016」では、シラバスに事前事後学習の時間と内容を明記し、学生自ら予習復習を行い授業に備えること、また科目の順次性や系統性を重視し、開講期内で必要な科目を着実かつ系統立てて修得することなどを目標に掲げています。本学附属図書館では、各学部の分野に準じた豊富な専門図書を用意し、資料や情報探しのサポートを行うレファレンスサービスや情報検索指導を行っています。開講期ごとの系統立てた修得のため、事前事後学習で分からない点があれば、本学附属図書館を積極的に活用し、学修に努めるようお願いいたします。



生命学部
新田 和雄 先生

図書館と私
小学生時代の私は、冒険旅行を題材にした小説が好き

で図書室にあるものを読み終えた記憶があります。中学、高校では読書感想文のために、手垢のついた本を借りて読んでいました。その後、大学での研究生生活に入ると毎月担当する抄読会の題材さがしに図書館に通いました。コピーを取ることを競っていた時代でした。

広島工業大学では、授業の準備や研究のため図書館に大変お世話になっています。図書館は、いろいろなサービスを提供してもらえるところです。新入生の皆さんも専門科目の勉強やレポート作成に利用する場所になることでしょう。そして、学生時代にいろんなジャンルの本をできるだけたくさん読まれることをおすすめします。

生命学部で学ぶ内容は、医療や食品生命科学の進歩にともなってどんどん新しくなっています。図書館をうまく利用して、充実した大学での学修が送れるように期待します。